

九州大学生協 フードパントリー

第009号
(通算519号)



[健康と安全]

取り組み概要

日時：2022年12月14日
場所：九州大学伊都キャンパス地下食堂
参加者数や組合員の反応：当日は約900名の学生が参加。また、日程・キャンパスを分けて2kgの米を計7000袋配布した。

背景や概要：新型コロナウイルスの影響を受けて、経済的に困っている学生組合員に対して、JA糸島と協同で食料品や日用品を無料で提供した。

地域と協力した学生のサポート

POINT.1 地域とともに



コロナ禍で困窮している大学生に何らかの食支援をしたいという相談がJA糸島から九州大学の教職員経由で九大生協にあり、学生委員会にて企画としてフードパントリーを実施することになりました。フードパントリー中には参加者とJA糸島の方々との温かいやり取りも見られ、**学生が地域を身近に感じる**きっかけになることが期待できます。

POINT.2 事前アンケートで組合員の声をチェック！

事前にアンケートで参加希望時間帯と求める物品の調査を行いました。**二部開催にしたことでより多くの学生が参加**することができ、アンケートをもとに配布する量を調整したことで遅く来た学生にも物品が行き届いていました。

前回実施した際に一部の種類の物品が余ってしまった反省を活かし、アンケート結果を参考にして物品を選択したため、**参加者のニーズに合った取り組み**ができました。

フードパントリー当日だけでなく、9～10月にかけてキャンパス内2カ所ですべてに分けて米の配布を行いました。2月には伊都キャンパス以外のキャンパスでも米を配布し、より多くの学生を支援できました。



POINT.3 『食』に目を向けるきっかけに！



学生委員会内で**食に関する意識調査**を行った結果や参加者の事後アンケートから、質の良い食生活を意識することが難しい原因として食材の価格の高さを挙げる学生が一定数いることがわかりました。

学生生活に密接に関わる『食』ですが、蔑ろにしやすいものでもあります。このフードパントリーをきっかけに九大生の食育も推進していきたいという学生委員の声を聞くことができました。